

## 推敲あれこれ

小山富紀子×高野公彦

⑧



作では思い切って「廃校」という言葉を入れました。

**高野** なるほど。意味が明快になって、リズムも整った良い歌になりました。原作と改作では、歌の出来ばえが大きく変わりましたねえ。原作は二〇点、改作は一〇〇点、それぐらい違います。

**小山** いえ、とんでもない。そんな違いはあらしません(笑)。

## ◆難しい漢字にはルビを付ける

**高野** こんにちは。推敲について毎号いろいろな方のご意見を伺っていますが、今回は京都の小山富紀子さんです。推敲の実例を幾つか用意していただきましたので、それに添ってお話を伺います。

**高野** 珍しい地名ですね。作者は学校名にも愛着があったんでしょうね。

**小山** そうやと思います。分校と作者の関係がよく分かりませんが、たぶん母校じゃないでしょうか。

**高野** ええ、原作を読むとそんな感じがします。でも「われらが母校」と明確に表現したほうが断然いいですね。

閉校式なさざるままの廃校と聞けば虚しも王余魚沢分校

閉校式なきまま廃校されしとふ王余魚沢分校われらが母校

**小山** この「王余魚沢」はルビが無いと読めませんねえ。『難解漢字大辞典』で調べるとカレイザワでした。「王余魚」は鯉のことですから、旧仮名で「かれひざは」というルビを付けました。

廃品回収の車来たりて学校の歴史ことごとく積んでゆきたり

廃校となり学校の歴史みな積んで去りゆく廃品回収車

**小山** 初句の字余りが気になって、直してみました。

**高野** この直し方、見事ですな。

**小山** 原作のままだと、学校が廃校となったのかどうか判然としません。で、改

## ◆叙述語を省略しない

高知では鮎は骨ごと食へと食ふ背中の化粧塩ばらばらと

土佐つばは鮎は骨ごと食へと食ふ背の化粧塩ばらばら落とし

**小山** 郷土色あふれる豪快な楽しい歌ですが、化粧塩しているのは鮎でしょうか背中ではなく「背の化粧塩」だと思えます。それから「ばらばらと」の後ろに叙述の言葉があるはずで、それを補いました。

**高野** 確かに鮎は背中ではなくて、背ですな。

**小山** 郷土色を深めるために、土佐人を親しんで呼ぶ「土佐つば」を使ってみま

した。

高野 いいですね。体温を持った人間がそこに登場した感じ。

小山 いつも高野さんは「叙述語を勝手に省略してはいけない」と言うてはるでしよ。だから「ばらばら」の後ろに「落とし」を補いました。

高野 ありがとうございます（笑）。

線香と水はやつぱり柄ぢやない君はタバコと酒でいいから（原作）

線香と水はやつぱり柄ぢやない君はタバコと酒がいいよね（改作）

小山 これは故人への気持ちですが、ストレートに伝わってくる歌ですが、結句の「いから」が少し気になります。

高野 言い切らないで、言いさしています。この「言いさし」が良くない。

小山 それで「いいよね」に変えてみました。

高野 そのほうが素直でいいですね。この歌は、友人が亡くなって墓前に線香の煙が立ち昇り、水が供えられている。それを見ながら心の中で（君は線香や水よりも、タバコや酒のほうが似合う）と呟いている、という歌ですね。

小山 ええ、私もそない思います。

◆常套句は使わない

どれくらゐひとと会はずにゐられるや指を折りつつ夜の雷を聞く（原作）  
あと幾日ひとと会はずにゐられるやさう思ひつつ夜の雷を聞く（改作）

高野 これは私の用意した推敲例です。物を数える時に使う「指を折る」は決まり文句なので変えました。

小山 「どれくらゐ」を「あと幾日」と変えはったのも、歌の意味が明確になつて、いいですね。

高野 作者は、コロナ禍で外出を自粛しているんでしようね。

小山 確かに「指を折る」は常套句ですが、私の場合、なにか楽しいことを待っている時は「指折り数えて〇〇を待つ」と言つてもいいかな、と思います。

高野 ほう、なるほど。では次の例に行きます。

◆「〇に〇に〇」は安っぽい

水泳に短歌にヨガに山歩き還暦すぎて

今が青春（原作）

水泳と短歌とヨガと山歩き還暦すぎて今が青春（改作）

高野 三つ以上の物を並列して述べる場合、「AにBにC」と言う人がよくいるでしよ。あの言い方は、上つ調子で安っぽくって通俗的です。普通に「AとBとC」と言うほうが落ち着いた言葉遣いでいいと思います。

小山 そうですねえ。「AにBにC」は軽っぽい感じ。

高野 むかし映画館で売り子が「えー、おせんにキヤラメル、あんパンにノシ鳥賊」と叫んでいたでしよ（笑）。

小山 ここは「と」でいいですが、ほかに「や」もありますね。

水泳や短歌やヨガや山歩き還暦すぎて今が青春（改作）

高野 あつ、これはいい。「と」より「や」のほうが柔らかい感じがする。すみませんね、至りませんで（笑）。

小山 いえ、とんでもない。

高野 本日はどうもありがとうございます。

イラスト「鬼に金棒」（高野公彦画）